

平成 29 年度

研究紀要

児童一人一人に確かな学力を身に付けさせる学習指導
～*kushima* 版アクティブ・ラーニングと学力調査等の
結果分析に基づく授業づくりを通して～



串間市教育研究所

はじめに

グローバル化が加速度的に広がり、人工知能は目覚ましい進化を遂げ、社会が目まぐるしく変化をすると言われている中で、子どもたちは将来の予測が大変難しい状況に置かれています。時代の大きな変革の中で、子どもたちが豊かに学ぶ環境が狭められ、学校教育の在り方、授業の根本的な改善によって、子たち一人一人に求められる資質・能力を身につけさせることが、国の喫緊の課題となってきました。

我が国では、平成10年の学習指導要領の改訂から言われてきた「生きる力」の育成がますます必要となってきています。そこで、これまで培ってきた学校教育の実践や蓄積を活用しながら、子どもたちに新しい時代に必要となる資質・能力を育てていくための新学習指導要領改訂の方向性を次のようなポイントで示しています。

- ① 子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有・連携するために社会に開かれた教育課程の編成を行う。
- ② 「何を理解し、何ができたか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という育成すべき資質・能力の明確化
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業の改善
- ④ 「カリキュラム・マネジメント」の重要性
- ⑤ 特別支援教育の充実

教育に関するこのような国の動向や学習指導要領の改訂等を見据えて、串間市教育研究所では、平成27年度よりアクティブ・ラーニングによる授業改善を軸として研究を継続して3年目となりました。これまでも、本市教育研究所の実践研究は、先進的かつ具体的であり、市内外から大変高い評価を頂いていました。本年度は、学力テストの分析を基に、求められている学力とは何かを根本から洗い直し、その力を授業でどのように育成していくかを徹底して追究しました。そして求められる資質・能力を育むために有効とされる「主体的・対話的で深い学び」とは何かを、串間市の子どもたちの姿に照らして分かりやすく定義しました。これにより、「*kushima* 版アクティブ・ラーニング」による目指す授業の姿が更に明確になりました。今後、この研究の成果が市全体に広がり、充実して行きますことを心より期待いたします。

最後になりましたが、多用な中に情熱をもって取り組んでいただいた研究員の先生方やお力添えをいただいた関係小・中学校の校長先生方に心から感謝申し上げます。

平成30年3月
串間市教育委員会
教育長 土肥 昭彦

目 次

| | | |
|-------------|---|----|
| I | 研究主題 | 1 |
| II | 主題設定の理由 | 1 |
| III | 研究の目標 | 1 |
| IV | 研究の仮説 | 2 |
| V | 研究の内容 | 2 |
| VI | 研究の実際 | 2 |
| | 1 <i>kushima</i> 版アクティブ・ラーニングについての研究 | 2 |
| | (1) <i>kushima</i> 版アクティブ・ラーニングの考え方 | 2 |
| | (2) <i>kushima</i> 版アクティブ・ラーニングに向かう課題づくり | 3 |
| | (3) 「 <i>kushima</i> 版アクティブ・ラーニングのススメ」の作成と活用 | 3 |
| | (4) ラーニング・スキルの指導 | 4 |
| | (5) <i>kushima</i> 版アクティブ・ラーニングの検証授業 | 4 |
| | 2 学力調査結等の結果分析に基づいた学習活動を取り入れた授業づくり 及び評価問題の実施についての研究 | 5 |
| | (1) 本市の学力調査等の結果及び B 問題の傾向 | 5 |
| | (2) 評価問題の作成と実施 | 6 |
| | (3) 評価問題とリンクした授業づくりのポイント | 7 |
| | (4) 学力調査結等の結果分析に基づいた学習活動を取り入れた授業づくり の検証授業 | 8 |
| | (5) 評価問題実施による授業改善と児童の変容 | 9 |
| VII | 研究の成果と課題 | 10 |
| | 1 <i>kushima</i> 版アクティブ・ラーニングについて | 10 |
| | 2 学力調査結等の結果分析に基づいた学習活動を取り入れた授業づくり 及び評価問題の実施について | 10 |
| | ○ 研究同人 | 10 |
| 【資料】 | | |
| ■ | 宮崎県教育研究機関連絡協議会第 35 回研究発表大会アンケート結果 | 11 |
| ■ | 学習指導案 | 13 |
| | 1 小学校 5・6 年「算数科」 | 13 |
| | 2 小学校 6 年「算数科」 | 16 |
| | 3 小学校 6 年「国語科」 | 19 |
| | 4 小学校 1 年「国語科」 | 22 |
| ■ | <i>kushima</i> 版アクティブ・ラーニングのススメ | 26 |
| ■ | ラーニングスキル | 28 |
| ■ | 評価問題 | 30 |
| ■ | 研究を振り返って ～研究所員から～ | 34 |

I 研究主題

児童生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる学習指導
～kushima 版アクティブ・ラーニングと学力調査等の結果分析に基づく授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

平成 29 年 3 月に新学習指導要領が公示された。今回の改訂の基本的な考え方として、「知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること」が挙げられている。その中で、知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を重視し、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の 3 つの柱で再整理されている。

また、我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子供たちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育てていくことが重要であるとし、「小・中学校においては、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかり引き継ぎつつ、授業を工夫・改善する必要がある。」と示されている。このことから、確かな学力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」やこれを実現する授業の工夫・改善の重要性を改めて読み取ることができる。

本市では、平成 29 年度教育施策において、学力向上の推進の柱に、「子どもたちの発達段階に応じた各種学力検査や知能検査を実施し、児童生徒の学習状況等の分析を行い、一人一人の児童生徒に確かな学力を身に付けさせるための指導の充実を図る。」「児童生徒に基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるため、少人数授業の実施など指導体制や指導方法の工夫改善（主体的・対話的で深い学び）等を通して、『わかる授業』で基礎学力の向上を図る。」ことを掲げている。

これに関連し、本研究所では昨年度まで、児童生徒が主体的に学び、自ら考え、自ら問題を解決していくことを通して、確かな力を身に付けさせるために「kushima 版アクティブ・ラーニング」について研究を行ってきた。また、みやざき学力調査に着目した学力アッププログラムを構築し、研究所で作成した練習問題を各学校で取り組むことで学力向上を目指してきた。研究の成果として、kushima 版アクティブ・ラーニングの理論と方法が明確になり、その実践が各校でなされるようになってきたこと、学力アッププログラムのトレーニングの効果として数値的なアップが見られたことが挙げられる。一方で、kushima 版アクティブ・ラーニングがまだ市内に十分浸透していない、教科目標の達成とアクティブ・ラーニングの実現が曖昧になっている、数値的な学力アップが限定的であったことなどの課題も残った。

そこで、新学習指導要領の方向性と昨年度の研究所の課題を踏まえ、本年度の研究主題を「児童生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる学習指導」、副題に「kushima 版アクティブ・ラーニングと学力調査等の結果分析に基づく授業づくりを通して」を設定した。児童生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせていくためには、「主体的・対話的で深い学び」を日々の授業で実践していくことが欠かせない。この「主体的・対話的で深い学び」を実現していく学習方法が kushima 版アクティブ・ラーニングである。この kushima 版アクティブ・ラーニングは単に主体的で能動的な学習活動にとどまらず、対話的で深い学びを伴うものである。また、学力調査等の結果分析に基づく授業づくりを行っていくことは、今求められている学力を児童生徒に身に付けさせていくことにつながる。よって、本研究を進めていくことは、児童生徒に知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力を養い、一人一人に確かな学力を身に付けさせることにつながり、ひいては串間市の学力向上の推進に寄与するものであると考える。

III 研究の目標

- 児童生徒の確かな学力の育成のための kushima 版アクティブ・ラーニングの在り方を究明する。
- 児童生徒の学力向上と教職員の指導力向上に向けて、学力調査等の結果分析に基づいた授業づくりの在り方を究明する。

IV 研究仮説

- 学習指導において、主体的・対話的で深い学びのある kushima 版アクティブ・ラーニングを実践していけば、児童生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。
- 学習指導において、学力調査等の結果分析に基づいた授業づくりを行い実践していけば、児童生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。

V 研究内容

- (1) kushima 版アクティブ・ラーニング
 - kushima 版アクティブ・ラーニングの考え方
 - ラーニング・スキルの指導
- (2) 学力調査等の結果分析に基づく授業づくり
 - みやざき学力調査の結果分析
 - 結果分析に基づいた授業における学習活動
- (3) 授業研究
 - 研究内容を検証するための指導案形式
 - kushima 版アクティブ・ラーニングの検証授業
 - 学力調査等の結果分析に基づいた学習活動を取り入れた授業の検証授業
- (4) 調査研究
 - 研究成果の検証と授業改善のための評価問題づくり
 - 評価問題の実施と結果分析

VI 研究の実際

1 kushima 版アクティブ・ラーニングについての研究

(1) kushima 版アクティブ・ラーニングの考え方

新学習指導要領公示前に、アクティブ・ラーニングに置き換えた形で、「主体的・対話的で深い学び」を重視していくことが打ち出された。これは、これまでの主体的で協働的に学習していくことだけでなく、深い学びを実現していくことが求められていることを意味している。話し合い活動が活発に行われ、児童生徒に確かな理解があり、深い学びが実現できていなければ、学習目標の達成がなされたことにならない。つまり、「主体的・対話的で深い学び」のあるアクティブ・ラーニングでなければならないのである。

そこで、本研究所においては、昨年度までの kushima 版アクティブ・ラーニングを見直し、次のように定義することにした。

【kushima 版アクティブ・ラーニングとは】

児童生徒が学習問題や課題に対して、主体的・対話的に問題解決し、深い学びを伴いながら学習していくこと

「主体的・対話的で深い学び」は、3つの要素を含んでいる。本研究では、それぞれ「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を次のように整理した。

| 3つの学び | 児童生徒の学びの姿 |
|--------|---|
| 主体的な学び | <ul style="list-style-type: none">○ 学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組んでいる。○ 自らの学習をまとめ、学習活動を振り返って、次の学習に意欲をもっている。 |
| 対話的な学び | <ul style="list-style-type: none">○ 子供同士の対話、教職員や地域の人との対話、本の作者等の考え方を手掛かりに考えることなどを通して、相手の思いや考えなどを理解し、新たな考え方等に気付いている。○ 意見交換したり議論したりすることで、あらかじめ個人で考えたことを伝え合い、共有しようとしている。 |
| 深い学び | <ul style="list-style-type: none">○ 対話等の内容や情報を基に問題を解決したり、自分の考えを深め広げたり、目的に応じてまとめたりしている。○ 問題解決の過程において、習得した知識や技能をより深く理解したり、知識等を関連付けて活用し問題を解決したりしている。 |

これらの3つの学びのある学習を kushima 版アクティブ・ラーニングと呼ぶ。

(2) kushima 版アクティブ・ラーニングに向かう課題づくり

今年度、kushima 版アクティブ・ラーニングの定義を見直し、「主体的・対話的で深い学び」としたことで、これまで以上に、学習内容や学習の課題が重要になってくると考えられる。そこで、kushima 版アクティブ・ラーニングを取り入れる場合の課題の要件を次のように整理してみた。

【kushima 版アクティブ・ラーニングを取り入れる学習場面の課題の要件】

- 主体的に解決する意欲をもつことができる課題
児童生徒が興味関心をもち、進んで解決してみようという意欲をもつことができるような課題
- 対話によって解決する必要性がある課題
対話によって解決できそうな課題や他者に相談したくなるような課題
- 深く考え、自ら解決したくなる課題
すぐに答えが出たり、考えなくても答えが出たりする課題でなく、ある程度深く考える必要性のある課題。
- 解決の必然性のある課題
児童生徒からの問いや疑問から生まれた課題であり、解決の必然性をもたせることができる課題
- 解決の見通しのもてる課題
児童生徒の主体的な学習や対話的な学習によって、解決できそうな課題や解決への見通しがもてる課題
- 多様な考え方や新しい考え方の生じることが想定できる課題
一問一答や一つの正解に終わらず、児童生徒の多様な考え方や対話などから新しい考え方が生じることが想定できる課題
- 本時の目標の達成に適した課題
kushima 版アクティブ・ラーニングを成立させるための課題でなく、本時の目標を達成させるのに適した課題
- 児童生徒の実態に応じた課題
児童生徒が全員学習に参加することができ、共に考えていくことができる課題、児童生徒の学習経験やレディネス等に応じた課題

(3) 「kushima 版アクティブ・ラーニングのススメ」の作成と活用


アクティブ・ラーニングは学習の一手法であり、画一的な学習方法を広めていくことは研究の方向性として好ましいことではない。しかし、児童生徒の学習の姿や授業の進め方が、教師や児童生徒にイメージできないのでは授業としての実践は難しい。アクティブ・ラーニングとはどのような学習を行っていくものであるかをある程度具体的に示す必要がある。

そこで、「kushima 版アクティブ・ラーニングのススメ」を作成し活用を図ることにした。この資料は、kushima 版アクティブ・ラーニングの「主体的な学び、対話的な学び、深い学び」の3つの学びの姿を児童生徒にも分かるように例示したものである。kushima 版アクティブ・ラーニングの授業づくりにおいて、教師が学習活動を考えていく上で有効であるとともに、児童生徒も学習の仕方がイメージしやすくなったと考える。資料の活用を図ったことで、アクティブ・ラーニングという言葉も児童生徒に浸透してきている。

【kushima 版アクティブ・ラーニングのススメ】


小学校4～6年生

くしまはん
中間版アクティブ・ラーニングのススメ

 「中間版アクティブ・ラーニング」は、中間市の学校で進められている学習の仕方です。中間版アクティブ・ラーニングで学習してみましょう。


1 主体的に学習しましょう。

- 解決方法や答えの見通しをもって学習します。
- 自分なりの考えをしっかりともちます。
- 進んで問題に取り組んだり解決したりします。
- 最後までねばり強く取り組みます。
- 学習をふり返って、学習をまとめます。




2 対話しながら学習しましょう。

- いろいろな対話（話し合い）をしながら学習します。
- 他人で考えたことを伝え合います。
- 友達の見解をしっかりと受け止めながら聞き、意見交換したり、考えを共有したりします。
- 対話を通して、新しい考え方やちがう考え方に気がきます。



3 学習したことを活用したりまとめたりして、深い学びにしましょう。

- 学習したことを活用して、問題を解決します。
- 友達や考えや資料などを使って、問題を考えたり、自分の考えをまとめたりします。
- 学習して新しく分かったことやよく分かったことを、書いたり話したりします。



※ いつもアクティブ・ラーニングの学習だけではありません。

(4) ラーニング・スキルの指導

アクティブ・ラーニングを推進していく上で、基本的な学習技能の定着は不可欠である。本研究所でも昨年度まで基本的な学習技能を「ラーニング・スキル」として研究してきた。今年度は昨年度の反省を生かし、ラーニング・スキルの指導を細分化し、教師がどのような指導や支援を行っていけばよいかをまとめた。これにより、児童生徒に身に付けさせた

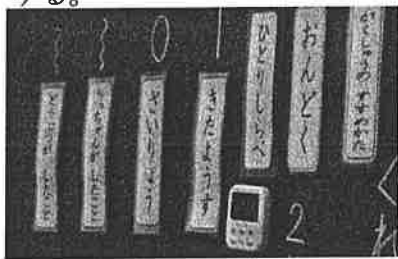
【ラーニング・スキルの指導表の一部】



| 段階 | ラーニング・スキル | 教師の指導及び支援 |
|------|--|---|
| 問題提示 | ① 問題やめあてをすばやく書き写すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 教師と同じ速さで書くように指示する。すばやく書き終えた子を賞賛する。書き終えたことを確認する。 全員で読んだり、一人一人に読ませたりしながら確認する。日々の授業で習慣化する。 |
| | ② 問題や教科書の文章を正確に読むことができる。 | |
| 個人思考 | ③ 学習問題、めあてに沿って、自分の考えを書き表すことができる。 【一人調べのスキル例】 ○ 問題について、自分なりの答えを書き表す。 ○ 問題に沿って、自分なりの考えでサイドラインを引く。 ○ 自分なりの考えを書き込んだり書き足したりする。 ○ 考えを説明する文を2～3文で書き表す。 ○ 考えたことを図や絵に表す。 | <ul style="list-style-type: none"> 考えを書き表す時間をある程度確保する。 必ず、自分なりの考えを表すことを学習の約束としておく。 書けない児童には問答をしながら言ったことを書き表すようにする。 自分なりの考えを書けたことを大いに賞賛する。 (丸を付けてもよい。) |

(5) kushima 版アクティブ・ラーニングの検証授業

ア 第1学年国語科「サラダでげんき」

イ 学習指導過程及び授業の実際

| 段階 | 学習活動及び学習内容 | ○は、教師の支援 ※は評価 □は、アクティブ・ラーニングの手立て |
|-------------|---|--|
| つかむ (5分) | 1 前時の学習を振り返る。 ・ 馬と白くまの場面 2 本時の場面を確認し、めあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> アフリカぞうがおしえてくれたことをまとめよう。 </div> | ○ 掲示資料により、前時を振り返らせ学習内容を想起させる。 主 本時の最後にアフリカぞうが教えてくれたことをまとめるということを確認し、学習の見通しをもたせる。 |
| 見通す (5分) | 3 学習の進め方について確認する。  | 主 アフリカぞうが教えてくれたことをまとめるために、一人調べをしたり、ペアや全体で話し合いをしたりすることを伝え、主体的な学習を促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 板書に学習の進め方を視覚的に示すことで、児童は何をするのかが分かっていた。短い時間で学習の見通しをもつことができ、意欲的に一人調べに進んでいた。 </div> |
| | 4 調べる観点に沿って調べる。 (1) 学習範囲を音読する。 (2) 一人調べをする。 ・ 登場の様子 | ○ 机間指導を行い、サイドラインなどが引けているか確認する。引けていない児童へは個 |

| | | |
|------------|--|---|
| 調べる (22分) | <ul style="list-style-type: none"> ・ すすめた材料 など <p>(3) 調べたことを確かめる。</p> <p>5 調べたことを基に話し合う。</p> <p>(1) ペアで話し合う。</p>  <p>(2) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぞうが教えにきたこと | <p>別に指導し修正させる。</p> <p>○ 印を付けた所を発表させることで、ぞうのしたことなどを確認させる。</p> <p>対 はじめにペアで、次に全体で自分の考えを発表させる。発表するときの約束を確認し、考えを共有したり、違いに気付いたりできるようにする。</p> <p>自分の考えを伝えた後、友達の考えをしっかり聞いていた。全体で発表する時は、自分と友達の考えを述べていた。</p> <p>○ 児童の発表を黒板に書いておくことで、本時のまとめにつながるようにする。</p> |
| まとめる (10分) | <p>6 アフリカぞうが教えてくれたことをまとめる。</p>  | <p>深 板書を手がかりに、アフリカぞうが教えてくれたことを一人一人ワークシートにまとめさせる。</p> <p>今日の学習をワークシートに沿って自分でまとめた。板書を参考にまとめていった。</p> <p>※ ぞうが教えてくれたことについて、大事なことを落とさずにワークシートにまとめることができたか。(ワークシート)</p> |
| 振り返る (3分) | <p>7 学習したことや学び方について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぞうが教えてくれたこと ・ まとめたこと | <p>主 本時の学習を称賛するとともに、次時の予告を行い、学習意欲を高める。</p> |

ウ 授業の成果と課題

- 主体的な学びを実現するために、学習の流れを視覚的に提示することや学習の流れを繰り返し指導することが学習の見通しをもたせる上で効果的であった。
- 対話的な学びを実現するために、ペアでの話し合いから全体での話し合いという活動は有効であった。特に、話し合うことが明確であったこと、友達の考えをよく聞くことの指導が対話を成立させるために大切であることが分かった。
- 音読、サイドラインを引く、自分の考えを伝える、友達の考えを聞くなどのラーニング・スキルがとてもよく身に付いていた。また、進んで発表する態度や最後まで集中して学習する様子も見られ、アクティブ・ラーニングを進める上でラーニング・スキルを身に付けさせていくことの重要性が再認識された。

児童の授業評価の結果からは、ほとんどの児童が各項目で「とてもよくできた」と評価しており、主体的な学びができていたと思われる。また、「自分の意見が言えてよかった」「友達が相手の顔を見て発表した」などの意見が多数挙がっており、対話等に意欲的に取り組んでいたことがうかがえる。

- 深い学びにしていくために、自分の考えを再構成させる場面はあったが、何をどのようにまとめさせるかを明確にしたり、形式を工夫したりする必要があった。

2 学力調査等の結果分析に基づいた学習活動を取り入れた授業づくり及び評価問題の実施についての研究

(1) 本市の学力調査等の結果及びB問題の傾向

ア 全体的な結果 (小学校)

- A問題 (主として知識に関する問題) については、県平均と同等の正答率を修めている。約半数の学校が県平均正答率を上回っている。
- B問題 (主として活用に関する問題) については、県平均の正答率を下回っている。県平均を上回っている学校数が2～3校である。B問題について課題があると言える。

評価問題は、国語科と算数科で全国学力調査等のB問題を参考に作成した。問題の内容と実施の手順等は以下の通りである。

| 問題内容 | 実施時期及び手順 |
|------------|--|
| 国語Ⅰ 風切るつばさ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期の学習内容、9月を目処に実施。 ○ 研究員所属の学校の6年生児童を対象として実施。 ○ 研究員が採点、分析結果を6年担任に伝えるとともに、授業づくりについて研究所の立場から助言する。 |
| 算数Ⅰ 円の面積 | |
| 国語Ⅱ 海の命 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2学期の学習内容、単元が終わり次第実施。 ○ 実施後の結果分析の結果や児童の変容等については、研究員から学校及び6年担任へ伝える。 |
| 算数Ⅱ 速さ | |
| 算数Ⅲ 比例 | |

(3) 評価問題とリンクした授業づくりのポイント

評価問題の実施と併せて、授業づくりのポイントをまとめて、これに沿って授業実践を進めていくことにした。授業づくりのポイントは、検証授業において授業に取り入れて実践を行った。

ア 国語（文学的文章の解釈に関すること）

| | 授業づくりのポイント | 取り入れたい学習活動 | アクティブラーニングの視点 |
|---|---------------------------|--|--|
| 1 | 文章を読んで考えたことを話し合うこと | <ul style="list-style-type: none"> ○ 場面の中心や主題等について、文章に書いて意見を交換する。 ○ 友達の感想などとの相違点などを考え発表し合う。また、友達の考えを踏まえたうえで、自分の考えを述べる。 | ○対話的な学び |
| 2 | 文章を読んで心情等をとらえること | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人物の行動や情景の描写から人物の心情を考えたり、想像したりする。 ○ 人物相互の関係を図などで表す。 ○ 人物の心情の変化をまとめる。 | ○深い学び |
| 3 | 叙述や描写に沿って、自分で考えたことを書き表すこと | <ul style="list-style-type: none"> ○ 叙述を基に感じ取れる事柄を書き表す。 ○ 優れた描写について感想や解説を書きまとめる。 ○ 表現の効果等について考えたり、意味を考えたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学び ○深い学び |

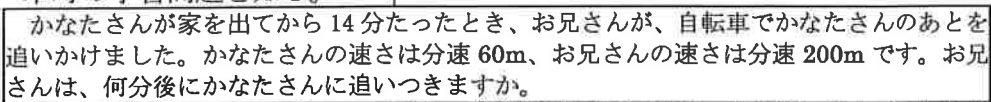
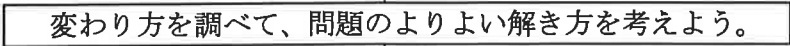

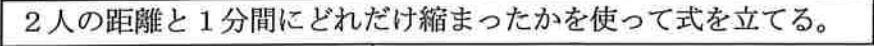
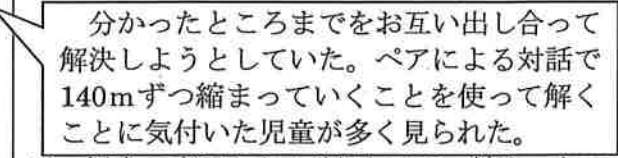
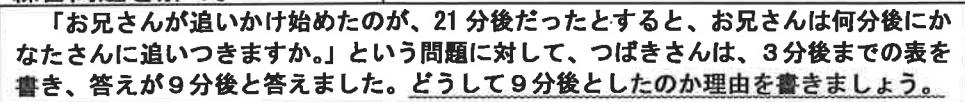
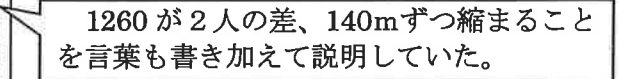

イ 算数

| | 授業づくりのポイント | 取り入れたい学習活動 | アクティブラーニングの視点 |
|---|---------------------------------|--|--|
| 1 | これまでの学習や生活経験を想起すること | <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の公式や定義などを確かめる。 ○ 問題を日常生活の事象と結びつけて考える。 | ○主体的な学び |
| 2 | 問題解決に必要な情報を正確に読み取ること | <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を読んだり書いたり、尋ねていることを確かめたりする。 ○ 問題の内容を絵や図に表したり、問題の意味を友達と説明し合ったりする。 | ○対話的な学び |
| 3 | 対話を通して、多様な考えに触れ、考えを高めること | <ul style="list-style-type: none"> ○ ペアやグループで話し合いを行い、互いの考えを交流する。 ○ 話し合いの中で、新しい考えや異なる考えに気づき発表し合う。 ○ めあてに沿って、よりよい考え方を求めて意見を述べ合う。 | ○対話的な学び |
| 4 | 数学的な用語を使って説明したり、筋道を立てて説明したりすること | <ul style="list-style-type: none"> ○ 数学的な言葉や定義を用いて、説明を書いたり、発表したりする。 ○ 考え方を筋道を立てて説明したり、正答や誤答の理由を説明したりする。 | ○深い学び |
| 5 | 学習したことを確かにしたたり生かしたりすること | <ul style="list-style-type: none"> ○ 解決した問題の解き方を使って練習問題を考えたり、解いたりする。 ○ 様々な既習事項を使って、活用問題を考えたり解いたりする。 ○ 学習して新しく分かったことや納得したことなどを発表し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学び ○深い学び |

(4) 学力調査等の結果分析に基づいた学習活動を取り入れた授業づくりの検証授業

ア 第6学年算数科「変わり方を調べて」

イ 学習指導過程及び授業の実際

| 段階 | 学習活動及び学習内容 ※太字は、学力調査分析から取り入れた学習活動 | ○は、教師の支援 □は、アクティブ・ラーニングの手立て |
|---------------|--|---|
| つかむ (5分) | 1 本時の学習問題を知る。  | |
| | 2 問題文を読み、図や絵を使って、問題の意味を理解する。 | ○ 情報を整理し解決の見通しをもたせるために、黒板の図を用いて児童に説明させる。 |
| 見通す (5分) | 3 前時の学習を振り返り、問題解決の見通しを立てる。 ・ 前時の内容と相違点 | 主 前時の学習を想起させ、本時との違いを考えさせることで、解決の見通しをもたせ、主体的な学習の意欲をもたせる。 |
| | 4 学習課題を設定する。  | |
| 調べる (8分) | 5 表を書いて問題を解決する。 ・ 全体で数値を記入 ・ 個人で数値の記入 ・ 表の数値と答の確認 | ○ 問題の図と対応させながら、0分後から3分後までの数値を記入させることで、数値の意味を理解させる。差が0になった時の時間を求めることを押さえる。 ○ 計算間違いをしている児童へは、個別に指導し正確な値を記入させる。 |
| | 6 表の結果からよりよい解き方を考える。 (1) 個人で考える。 (2) ペアで考える。  (3) 全体で話し合う。 ・ $840 \div 140 = 6$ ・ まとめ  | ○ 表からきまりを見付けたり、式に表したりして解決していくことを個別指導する。 対 自分の考えを伝え合うために、ペアで話し合わせる。ペアで考えたことを全体で話し合い、よりよい考え方に気付かせるようにする。  ○ 児童の意見から1分間に140m縮まったことを押さえて、まとめにつなげる。 |
| 話し合う (12分) | 7 練習問題を解く。  | ○ 3分後までの表を提示し、表を見て答を出したという題意を理解させる。 深 既習の140mずつ縮まっていくことを生かして問題解決ができるように個別指導する。 早く解決できた児童には、3分後に2人の差が840mになったことに着目させて別解も考えさせる。  |
| | ・ $60 \times 21 = 1260$ $1260 \div 140 = 9$ 9分後  | |
| 振り返る (3分) | 8 本時学習を振り返る。 ・ 学習内容と学習の仕方について | 深 本時学習について振り返り、対話や話し合いから気付いたことや、自分がよく理解できたことなどを発表させる。 |

ウ 授業の成果と課題

- 問題の把握の場面で、情報を正確につかみ整理させるために、図を使って問題の意味を児童に説明させた。問題の場面が視覚的にイメージでき主体的に解決していく意欲をもたせることができた。
- 難しい問題であったが、ペアで対話することで解決のヒントを得たり、問題解決ができたりする児童が多く見られた。対話的な学びの場面を設定することで、学びを進め深めていくことができた。
- 理由を説明する問題を練習問題として出題したが、多くの児童が学習したことを生かして問題を解くことができていた。普段の授業で理由を説明する活動を継続してきたことで児童が抵抗なく取り組むことができた。
- 個人思考の段階で自分の考えがもてず対話の場面で交流が成立しないことがあった。対話を有効にしていくために、机間指導や個別指導を充実させて一人一人の考えをもたせたり、問題解決につながる見通しをもたせたりしておくことが必要である。

【児童の授業評価アンケート結果（自由記述の抜粋） 6年2組34名】

| | | |
|------------------------|---|----------------------------|
| できるようになったことやより深く分かったこと | <ul style="list-style-type: none"> ・表に書いてみると分かることに気付いた。 ・変わり方のきまりを使って早く解けた。 ・最初の問題のやり方を使って次の問題を解くことができた。 | 25名(73%)の児童がいずれかの意見を挙げていた。 |
| 学びを振り返って、自分でよかったと思うこと | <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を聞いて解けるようになった。 ・話し合うことで自分の意見が書けた。 | 20名(58%)の児童がこれらの意見を挙げていた。 |

(5) 評価問題実施による授業改善と児童の変容

ア 授業改善の取組

検証授業以外の普段の授業の中でも評価問題を意識した授業改善の取組を実践してきた。特に、評価問題Ⅰで課題になったことについては重点的なポイントとして実践した。

国語科においては、課題に対して自分なりの考えをもつこと、自分の考えを話し合いの中で発表し合うこと、話し合いを受けて自分の考えを再構成することなどを学習活動として取り入れて実践した。特に、読み取ったことや自分の考えをある程度の文量で書き表すことを継続して取り組んできた。

【話し合い活動の実践】

算数科においては、既習事項を想起すること、自分の考えを話し合いの中で発表し合いお互いの考えを理解し合うこと、学習したことを生かして問題を解決することなどを継続して取り組んできた。特に、話し合いの中で考えを交流しながらよりよい考え方を見付けていく活動や考えを説明し合ったりする活動をより多く実践し積み重ねてきた。



イ 評価問題実施による児童の変容

授業改善の取組と検証授業の実施の後に、研究所で作成した評価問題を実施し児童の解答を分析した。これにより授業改善の成果や児童の変容を考察した。

(ア) 国語科

- 評価問題ⅠからⅡと実施するなかで無解答が減ってきている。また、設問の条件を満たした解答が増えている。
- 理由を説明する問題において、叙述に即して根拠を示したり、他者の意見につなげて説明したりすることができる児童が増えてきている。普段の授業で、ノートに自分の考えの説明を書いたり、対話で考えを説明したりする活動を多く取り入れてきたことの成果がうかがえる。

(イ) 算数科

- 評価問題ⅠからⅡ、Ⅲと実施するなかで無解答が減ってきている。児童の問題に取り組む姿勢がよくなってきており、意欲が高まってきている。
- 理由を説明する問題などにおいて、数学

(1) 花子さんは、まとめた表を見て、時間ときよりは比例の関係にあるということを見つけました。時間ときよりの関係が、比例といえる理由を説明しなさい。

$$11: \text{音が落ちた場所までのきり} \times 7 \text{分に}$$

$$11 \text{が光ってから音が鳴るまでの時間を} \times 7$$

$$11 \times 7 = 77 \text{分} \times 7 \text{分} \text{は比例しています}$$

【算数の評価問題の児童の解答例】

的な用語を用いて説明したり、筋道を立てて説明したりすることができる児童が増えてきている。普段の授業で、ノートに自分の考えの説明を書いたり、対話で考えを説明したりする活動を多く取り入れてきたことの成果がうかがえる。

VII 研究の成果と今後の課題

1 kushima 版アクティブ・ラーニングについて

- kushima 版アクティブ・ラーニングを「主体的・対話的で深い学び」と定義し、3つの学びの姿を明確にした。「kushima 版アクティブ・ラーニングのススメ」の活用や指導案に3つの学びを明記したことにより、授業における3つの学びが児童生徒の学習の姿として具体的にイメージしやすくなり、授業改善の視点としても分かりやすくなった。
- 主体的な学びの姿として、児童生徒が問題解決の見通しや終末までの学習活動の見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。また、児童生徒の粘り強く学習に取り組む姿勢も高まってきた。
- 対話的な学びの姿として、ペアや全体で話し合いを行う際、自分の考えをしっかりと伝えたり、友達の考えをきちんと聞いたり、お互いの考えの違いに気付いたりすることができるようになった。様々な対話の学習の積み上げや進め方の指導が効果を上げてきた。
- kushima 版アクティブ・ラーニングを進める土台として、ラーニング・スキルの指導は大変重要であった。話す、聞く、書く、読むなどラーニング・スキルを明確にして、意識的に継続的に指導してきたことは、kushima 版アクティブ・ラーニングの成立に大いに効果があった。
- 深い学びの姿について、検証授業で明確になってきたが、一人一人の学びのレベルなのか、本時の目標に沿ったものなのかなど曖昧な部分もあった。深い学びについては、教科における深い学びや単元における深い学びの姿などにさらに明確にして授業を進めていく必要がある。また、教師が児童生徒の深い学びの状況をどのようにみとるかということも課題として挙げられる。

2 学力調査等の結果分析に基づいた学習活動を取り入れた授業づくり及び評価問題の実施について

- 小中学校双方の視点を取り入れて学力調査結果分析や問題作成を行ったことにより、教科等で今求められている学力や授業づくりのポイントが明確になった。そして、ポイントを生かした指導の流れが分かり、指導者の評価問題を意識した取組が授業改善の取組として継続的に行われた。
- 授業改善の取組により、児童に身に付けさせたい力を付けることができてきた。国語科において対話の後に自分の考えを書きまとめることや、算数科において解き方を説明することなどの面での向上が見られたことは授業づくりと授業実践の成果である。
- 研究を進める中で学力調査分析を基にした授業づくりと kushima 版アクティブ・ラーニングの授業づくりの関連が明らかになってきた。併せて、双方の授業が今求められている確かな学力を付けていく学習として有効であるということが見えてきた。
- 評価問題を意識した取組を継続していくことが授業改善につながる。学力調査等分析→授業改善計画→評価問題作成→授業改善の実施→評価問題の実施→結果分析というサイクルを継続的に進めていく必要がある。
- 今回の研究では小学校第6学年をモデルとして実施したが、他の単元や他の学年においてもこのような取組を進めていき、小中学校で系統性のある指導を進めていく必要がある。

【 研究 同 人 】

| | | | | |
|-----|--------|-----------|---------|-----------|
| 所 長 | 土肥 昭彦 | (串間市教育長) | | |
| 事務局 | 野辺 幸治 | (学校政策課長) | 永井 敬雄 | (教育指導監) |
| 指導員 | 津奈木 考嗣 | (指導主事) | | |
| 研究員 | 多良 久 | (北方小学校教頭) | 音山 福太朗 | (福島小学校教諭) |
| | 川越 雅彦 | (有明小学校教諭) | 瀬戸山 なつ代 | (大東小学校教諭) |
| | 上村 直輝 | (大平小学校教諭) | 凶師 啓悟 | (都井小学校教諭) |
| | 富永 直樹 | (串間中学校教諭) | 清田 しのぶ | (串間中学校教諭) |
| | 尾崎 城夫 | (串間中学校教諭) | | |

平成29年度宮崎県教育研究機関連絡協議会
研究発表大会アンケート結果

○昨年度の研究集録も読ませていただきました。本年度は国の動向も踏まえ、アクティブ・ラーニングの定義も見直されて、より一層実践的な研究になっていました。

○指導案の中にも「主」「対」「深」で示され、手立てがわかりやすいと思いました。

○毎年、串間市の発表を聞かせていただいています。昨年度の成果と課題を受け、様々な学校規模、実態に合わせて、子どもたちのために誠実に取り組まれ、成果を上げられていることに感動しました。

○研究所の皆さんの実践を、ぜひ串間市全体に広げ、更には全市に広げていただきたいと思います。誰でも、どこの学校でもやっていることが学力向上には大切であると思います。実践は大変ですが、子どもたちの成長を感じた時、疲れも吹き飛ばすと思いますので、授業改善の熱い風を南から吹かせてください。

○「串間版アクティブ・ラーニング」が宮崎県のスタンダードとして活用が広まることをお祈りしております。

○学力調査の分析から落ち込みを見出し、その解決に向けて具体的な取組が考えられていると思いました。アクティブ・ラーニングのすすめとして、1つの形ができあがっているのも素晴らしいと思います。

○児童の解答の仕方を見る評価問題はとても効果的だと思いました。ぜひ、問題を公開していただきたいと思いました。

○学力調査の分析から落ち込みを見出し、そこを中心に評価問題を作成したり、授業づくりのポイントを示したりするなど、学力向上に向けての手立てが十分に行われていると感じました。

○テスト分析を行い、子どもに必要な力は何かを明確にされていました。実際に対策テストの解答の内容から子どもの学力向上の変化を分析されていたことなどが参考になりました。串間版アクティブ・ラーニングのすそめを串間市全体に広げようとしていることにとても感心しました。

○児童生徒の変容を捉えるために、評価問題を作成され、目に見える形で力がついていることを捉えていらしたので、説得力があり素晴らしいと感じました。作成と実施の手順の中に「研究所の立場から助言」とありましたが、これを校内研究の形で取り入れることができるようになるとうれしいと思いました。日々の業務の中で校内研究の時間を確保するのも難しいですが、研究所が実践を通じて研究の骨組みを提示してくださることは、学校にとってもよいことだと感じました。

○串間版アクティブ・ラーニングを実際に作成していることが各学校においては、とてもわかりやすく実践的であると感じました。

○ラーニングスキルを設定して継続していくことにこれからの定着、学力向上が望めると思いました。また、課題設定の要件を8つに分けて整理されていたことがとても興味深かったです。教える側が子どもたちに考えさせたいことは何なのかを把握することは重要ですし、その指針にもなると感じました。串間市全体に研究の内容が浸透することを心から希望します。

○ラーニングスキルをしっかりと明示してあるのが参考になりました。指導案の中のアクティブ・ラーニングの手立ても大変役立つと思いました。評価問題の作成も、作成を通じて先生方のスキルアップも図られるので大変よい試みだと思いました。

○アクティブ・ラーニングの「深い学び」の姿をどう捉えるかということは、本当に難しい課題だと思いました。授業の中だけでなく、授業後に、その内容に関することに興味を持ったり、自分で調べたりする姿も深い学びにつながるものではないかと思いました。

○串間は10の小学校から1つの中学校へ児童が集まるので、小学校で共通した指導をしておくことが必要不可欠なのですね。だから、小小連携の必要性や主題研究を研究所が牽引していく必要があるのですね。大変よく分かりました。

○検証授業の内容説明で、授業の中で、どこで主体的・対話的で深い学びを取り入れていくのが明確になっていて参考になりました。単元を通して、どのように取り入れていくのか検討されていけば、そこも聞きたかったです。

○ペア学習を通して、どのような意見（考え）をもったのかを互いに確認し合うことは大切だと思います。また、それがどう自分の考えに作用したのかを具体的に聞きたいと思いました。

○今は研究員を中心にした取組かもしれませんが、市全体に普及すれば、B問題の正答率もアップするだろうなと思いました。どう普及させるか？が課題だと思いますが、その視点を研究して広げていただけるとありがたいです。

○「アクティブ・ラーニングのススメ」はよい掲示物だと思います。しかし、大体の教師がそれを見ただけでは、どう進めればよいか分からないと言い出します。どう広げていくか、どうフォローしていくのか気になります。

○**主体的**なのか、**対話的**なのか**深い学び**なのかにあまり意識しすぎると、形だけのアクティブ・ラーニングになりはしないか心配です。指導案の右側に記してあることは、太字で当たり前のこととして、「どんな発問をしたら 主体性が高まるのか。」「どんな風に指示を出したら、ペア・グループ学習が本当に対話的になったか。」などを研究した方がよいのではないかと思います。

○検証授業のVTRと説明を、さらっと聞いただけでは、串間市の研究による国語科の深い学びは「ワークシートにまとめることが深い学びとして扱われるのだ。」と捉えてしまいがちです。印象的かつ説得力のある深い学びの場面を紹介していただけると参考になります。

第5・6学年1組 算数科学習指導案

7月11日(火) 5校時

指導者 図師 啓悟

1 単元 5年「合同な図形」(全10時間)

6年「比とその利用」(全10時間)

2 指導計画

| 5年 | | 6年 | |
|-----------|------------------------------|-----------|---------------------|
| 時間 | 主な学習内容及び学習活動 | 時間 | 主な学習内容及び学習活動 |
| 1 | 合同な図形の動機づけ 図形の形、大きさと合同の意味 | 1 | 復習と準備 |
| | | 1 | 2量の混合具合の表し方と学習の動機づけ |
| 1 | 合同な図形の性質 方眼を使った合同な図形の作図 | 1 | 比と比の値の表し方 |
| 1 | 基本四角形を、対角線で分けて合同の観点で考察 | 1 | 比が等しいことの意味と等しい比の性質 |
| 1 | 合同な四角形をかく要素の考察 | 1 | 比を簡単にする |
| 1 | 3通りの方法による三角形の作図 | 1 | 少数、分数を使った比と比の値 |
| 1 | 三角形分割による四角形の作図 | 1 | 比の表し方の練習 |
| 1 (本時) | 三角形の内角の和のきまりの発見と確かめ | 1 | 比を使った割合の第2、第3用法の問題 |
| 1 | 三角形の内角の和の適用題 | 1 (本時) | 全体を決まった比に分ける |
| 1 | 四角形・五角形の内角の和 | 1 | 基本の確かめ |
| 1 | 基本の確かめ | 1 | 3つの数の比 |
| 1 | 四角形のしきつめ | | |

3 本時の目標

| 5年 | 6年 |
|---|--|
| ○ 三角形の3つの角の敷き詰めや3つの角の和を求める活動を通して、三角形の3つの角の大きさの和が 180° になることを理解することができる。 【知識・理解】 | ○ 部分の比から全体がいくらになるかを求め、部分の数量を求めることができる。 【数学的な考え方】 |

4 本時で目指す *kushima* 版アクティブラーニングによる児童の姿

| 5年 | 6年 |
|---|--|
| <p>☑ 3つの角の和の規則性に関心をもつとともに、三角形の調べ方や答えの大きさの見当付けなどの見通しに沿って取り組んでいる。</p> <p>☑ 話し合う段階で、3つの角の和のきまりについての自分の考えを説明するとともに、友達の考えを取り入れながら3つの角の和の規則性について、全員で共有しようとしている。</p> <p>☑ 対話を通して、どんな三角形でも内角の和は180°になるというきまりに納得し、自分たちの言葉でまとめたり、分かったこととして振り返りで発表したりしている。</p> | <p>☑ 見通しの段階で、前時とは分かっている量が違うところに気付くとともに、前回の授業で有効だった線分図などの考え方を使って解こうとしている。</p> <p>☑ 話し合う段階で、線分図などを示しながら、たずねられているところが全体のいくつ分にあたるかについて説明している。さらに、部分の数量の求め方についての考えを友達と共有しようとしている。</p> <p>☑ 対話を通して、部分の比を使って全体がいくらになるかを考えて解けばよいということに納得し、自分たちの言葉でまとめたり、分かったこととして振り返りで発表したりしている。</p> |

5 本時におけるラーニング・スキル

| | 5年 | 6年 |
|------|---|------------------------|
| つかむ | ・ 問題やめあてをすばやくノートに書き写すことができる。 | |
| 見通す | ・ これまでの学習と違うところや同じところから本時のめあてを決め、答えの見当付けをすることができる。 | |
| 調べる | <ul style="list-style-type: none"> 見通しに沿って調べることができる。 調べたことを分かりやすくボードに書くことができる | ・ 絵や図を用いて調べることができる。 |
| 話し合う | <ul style="list-style-type: none"> めあてに対する答えを導く意識をもって話し合いに参加することができる。 同じような内容でも自分の言葉で説明することができる。 分からないことや疑問に思うことを聞くことができる。 友達の意見のよさや、ちがいについての自分の考えを述べるすることができる。 必要な事柄を黒板に書くことができる。 | |
| | ・ 調べた結果から新しいきまりに気付くことができる。 | ・ 絵や図を用いながら話し合うことができる。 |
| まとめ | ・ めあてに対する自分たちなりの答えを書くことができる。 | |
| 振り返り | ・ 新しく分かったことや、友達の意見で参考になったこと、これからの学習に生かしたいことなどを言うことができる。 | |

6 学習指導過程

| 部は担任が直接指導に入る割合が高い部分 | |
|---|--|
| 資料準備 | 指導上の留意点 (口は、アクティブラーニングの手立て ※は評価) |
| <p>三角形の紙 (掲示用)</p> | <p>○ 三角形の3つの角が合 わさるように並べるとテ ープ状になることを示し、 3つの角の和に関心を も たせる。</p> <p>○ 他の三角形では3つの 角の和がどうなるかを投 げかけ、学習問題につなげ る。</p> <p>どんな三角形でも3つの角を合わせると180度になるか調べよう。</p> |
| <p>主な発問と予想される児童の反応</p> | <p>○ 合同な3つの三角形を並べると合同な形になるかな。</p> <p>・角の大きさが関係ある？</p> <p>・角度を調べて分かるかも。</p> <p>○ 真つすぐだから180°。</p> <p>○ 一つの三角形を調べていかな。</p> |
| <p>学習活動及び学習内容</p> | <p>1 前時の復習をする。</p> <p>2 本時の学習問題を知 る。</p> <p>・ 合同な三角形を並べ た形を調べる。</p> <p>・ 3つの角を合わせたときの和について話し合う。</p> <p>3 めあての確認をする。</p> <p>4 解決の見通しを立て る。</p> <p>○ 調べる三角形</p> <p>○ 答えの見通し</p> <p>○ 3つの角の和の調べ方</p> |
| <p>段階</p> | <p>つかむ・見通す (8)</p> |
| <p>学習活動及び学習内容</p> | <p>1 前時の練習問題を解く。</p> <p>P87②</p> <p>○ 解答プリントで答え 合わせをする。</p> <p>○ あかねこ計算スキル</p> <p>2 本時の学習問題を知る。</p> <p>みずきさんは、おばあさんからもらった長さ2.5mのリボンを、妹と分けることにしました。</p> <p>みずきさんの分と妹の分の長さの比を3:2にするには、それぞれ何mずつに分けたらよいですか。</p> <p>3 見通しを立てる。</p> <p>・ これまでの学習と違うこと、使えそうなことを考える。</p> |
| <p>段階</p> | <p>つかむ・見通す (7)</p> |
| <p>主な発問と予想される児童の反応</p> | <p>・ 今日が全体が分かって いる。</p> <p>・ 前回のよ うに、線分図にすると分かるかも。</p> |
| <p>学習活動及び学習内容</p> | <p>4 めあてを確認する。</p> <p>比と全体の量を使って、部分の数の求め方を考えよう。</p> <p>5 答えの見通しを立てる</p> <p>・ みずきは妹より長い。</p> <p>・ みずき1.5、妹1くらい。</p> <p>・ みずきさんは全部を5こに分けた3個分だ。</p> |
| <p>段階</p> | <p>調べる (10)</p> |
| <p>主な発問と予想される児童の反応</p> | <p>・ 全部を合わせると真つすぐ。測ってみても180°。</p> <p>・ 一つ一つの角の大きさを合わせたら180°。</p> <p>・ 他の三角形ではどうなんだろう。</p> |
| <p>学習活動及び学習内容</p> | <p>6 一人調べをする。</p> <p>・ 三角形を切って角を合わせる。</p> <p>・ 角の大きさを測る</p> <p>・ 式</p> <p>・ 発表の準備</p> <p>・ 他の三角形を切って同じように調べる。</p> |
| <p>資料準備</p> | <p>はさみ・のり・三角形の紙・ホワイトボード</p> |
| <p>指導上の留意点 (口は、アクティブラーニングの手立て ※は評価)</p> | <p>○ 互いに違う大きさ・形の三角形を作って調べさせ ることで、「友達はどうな っただろう。」という興味 をもたせ、対話への意欲を 高める。一つの三角形を調 べ終えたら他の三角形に ついても調べる。</p> <p>○ 調べ終えた児童は、他の 三角形ではどうか、四角形 ではどうかなど様々な疑 問をもとに調べさせる。</p> |
| <p>指導上の留意点 (口は、アクティブラーニングの手立て ※は評価)</p> | <p>○ 誤答の場合は消さずに 赤でやり直しをさせ、担 任があとで見てもどのよ うにして解くことができる かが分かるようにする。</p> |
| <p>主な発問と予想される児童の反応</p> | <p>○ 答えの見通しを立てさ せることで、問題場面の イメージをさらに広げ、 量感をとらえさせる。ま た、一人調べ後には、答 えの見通しと比べるよ うにさせる。</p> |
| <p>学習活動及び学習内容</p> | <p>6 一人調べをする。</p> <p>・ 絵、線分図、関係図</p> <p>・ 式</p> <p>・ 発表の準備</p> |
| <p>段階</p> | <p>調べる (10)</p> |
| <p>主な発問と予想される児童の反応</p> | <p>・ 一つの式にするにはどう すればいい んだろう。</p> <p>・ 今回の1あたりはなにになるのかな。</p> |
| <p>学習活動及び学習内容</p> | <p>○ ホワイトボードに、調 べたことやめあてに対す る自分なりの答えを書 く。制限時間になっても話合 いに移るようにする。</p> |
| <p>資料準備</p> | <p>解答プリント</p> <p>問題文の掲示</p> |

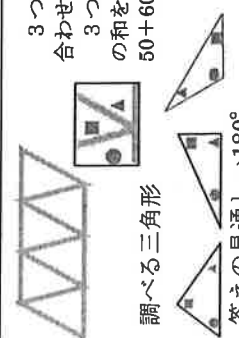
| | | | | | | | |
|--|--|---|--|-----------|--|--|---|
| | <p>対 対話的な学びのために以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとの違いに目を向けること。 違うところ、良く分らないことをそのままにしないこと。 全員でまとめる意識をもって意見を述べること。 <p>○ 違うところが明確になるようにボードを貼る場所を仲間分けさせ、その部分をマークさせる。</p> <p>○ 発言の仕方などで良い点や課題を示すことで次の話し合いに生かすことができるようにする。</p> <p>※ 三角形の内角の和が180°であることとその根拠を理解している。</p> | <p>みんなの三角形どれも180°になるね。</p> <ul style="list-style-type: none"> じゃ、どんな三角形も3つの角の和は180°になるっていいね。 | <p>7 全体で練り合いをする。</p> <p>この三角形の、角Aは90°、角Bは60°、角Cは30°なので</p> <p>$90 + 60 + 30 = 180$</p> <p>で、3つの角の和は180°になりました。</p> <p>三角形を切り分けてくっつけると180°になった。</p> <p>○ 自分たちの言葉でまとめる。</p> | 話し合う (20) | <p>7 全体で練り合いをする。</p> <p>みずきさんの分は全体の$\frac{3}{5}$倍だから</p> <p>$2.5 \times \frac{3}{5} = 1.5$ 答え1.5m</p> <p>線分図で見ると2.5mが5等分されるから、一つあたりは</p> <p>$2.5 \div 5 = 0.5$</p> <p>みずきさんは0.5が3個分だから</p> <p>$0.5 \times 3 = 1.5$ 答え1.5m</p> <p>○ 自分たちの言葉でまとめる。</p> | <p>○ みずきさんは全体の何倍になるかな。</p> <p>○ みずきさんの分は全部をいくつに分けた何個分かな。</p> | <p>対 対話的な学びのために以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとの違いに目を向けること。 違うところ、良く分らないことをそのままにしないこと。 全員でまとめる意識をもって分かったことを述べること。 <p>○ 違うところが明確になるようにボードを貼る場所を仲間分けさせ、その部分をマークさせる。</p> |
| | <p>どんな三角形も3つの角の和は180°になる。</p> <p>深 視点に沿って学びを見つめさせ、これからに生かすようにさせる。</p> | <p>8 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返しをする。 | <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>全体がいくらかを求め、そのうちの何個分かを考えて解くとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返しをする。 | 話し合う (13) | <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>全体がいくらかを求め、そのうちの何個分かを考えて解くとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返しをする。 | <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>全体がいくらかを求め、そのうちの何個分かを考えて解くとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返しをする。 | <p>深 視点に沿って学びを見つめさせ、これからに生かすようにさせる。</p> <p>※ 部分の比から全体がいくらかになるかを求め、そのうちの何個分かを考えて解くことができる。</p> |
| | <p>7 7/11</p> <p>め</p> | <p>7 7/11</p> <p>め</p> | <p>7 7/11</p> <p>め</p> | 話し合う (5) | <p>7 7/11</p> <p>め</p> | <p>7 7/11</p> <p>め</p> | <p>7 7/11</p> <p>め</p> |

7 板書計画

7/11 め

合同な図形

どんな三角形でも3つの角を合わせると180度になるか調べよう。



3つの角を切って合わせると180°
3つの角の大きさの和をみると
 $50 + 60 + 70 = 180$

調べる三角形
答えの見通し→180°

まとめ
3つの角の和の調べ方
① 3つの角を切って合わせる
② 角の大きさを計算する

どんな三角形も3つの角の大きさの和は180°になる。

(児童がホワイトボードを貼り、書き込むスペース)

この三角形の、角Aは 90° 、角Bは 60° 、角Cは 30° なので、 $90 + 60 + 30 = 180$ で、3つの角の和は180°になりました。

三角形を切り分けてくっつけると180°になった。

どの三角形で調べても同じだ

7/11 め

比とその利用

比と全体の量を使って、部分の数の求め方を考えよう。

みずきさんは、おばあさんからもらった長さ2.5mのリボンを、妹と分けることにしました。

みずきさんの分と妹の分の長さの比を3:2にするには、それぞれ何mずつに分けたらよいですか。

ち 今日全体が分かっている→部分を出す
こ 線分図でみる
答 みずき→1.5くらい
妹 →1くらい

(児童がホワイトボードを貼り、書き込むスペース)

① みずきさんの分は全体の $\frac{3}{5}$ 倍だから
 $2.5 \times \frac{3}{5} = 1.5$ 答え1.5m

② 線分図で見ると2.5mが5等分されるから、一つあたりは
 $2.5 \div 5 = 0.5$
みずきさんは0.5が3個分だから
 $0.5 \times 3 = 1.5$ 答え1.5m

まとめ
全体がいくらかを求め、そのうちの何個分かを考えて解くとよい。

練習 P88②

1 単元 「変わり方を調べて(1)」

2 単元計画

| 時間 | 主な学習内容及び学習活動 |
|-------|----------------------------------|
| 1 | ・2量の和の変わり方に着目する問題を表からきまりを見つけて解く。 |
| 1(本時) | ・2量の差の変わり方に着目する問題を表からきまりを見つけて解く。 |

3 本時の目標

- 2つの変化する数量を表に表し、表から変化の規則性を考え、問題を解くことができる。
(数学的な考え方)

4 本時で目指す kushima 版アクティブラーニングによる児童の姿

- 主** 2つの変化する数量を考慮するにあたって、表を積極的に使いながら、学習の見通しをもって学習している。また、最後までねばり強く問題解決に当たっている。
- 対** 表の数値の変わり方から分かるきまりや式を友達に説明したり、友達の説明を聞いたりして、考えを共有しながら問題解決を行っている。
- 深** 友達の考えや学習のまとめを生かして、練習問題などの問題解決に生かしている。学習を振り返り、学習してよく分かったことをまとめている。

5 本時におけるラーニング・スキル

| | |
|------|---|
| つかむ | ・ 問題やめあてをすばやくノートに書き写すことができる。 |
| 見通す | ・ 既習事項を想起し、活用できることや本時と違うところに気付き、学習課題を決めることができる。 |
| 調べる | ・ 見通しに沿って自分の力で解決していくことができる。 ・ 自分の考えを表現するためのノート作りができる。 |
| 話し合う | ・ 自分の考えを表現したノートを基に、話し合いに参加することができる。 ・ 分からないことや疑問に思うことを聞くことができる。 ・ 友達の考えのよさや、自分の考えとの違いについての意見を述べるすることができる。 |
| 振り返る | ・ 学習したことや学び方について振り返り、まとめることができる。 |

6 学習指導過程

| 段階 | 学習活動及び学習内容 | 主な発問と予想される児童の反応 | 指導上の留意点 (口は、アクティブラーニングの手立て) | 資料準備 |
|-------------|------------------------------|--|---|------|
| つかむ (5分) | 1 本時の学習問題を知る。 | | ○ 問題文を提示し、前時の問題との違いを考えながら黙読させる。 ○ 問題解決の見通しをもたせるために、黒板の図を用いて児童に説明させ、問題の把握ができるようにする。 | |
| | 2 問題文を読み、図や絵を使って、問題の意味を理解する。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> かなたさんが家を出てから14分たったとき、お兄さんが、自転車でかなたさんのあとを追いかけてきました。 かなたさんの速さは分速60m、お兄さんの速さは分速200mです。 お兄さんは、何分後にかなたさんに追いつきますか。 </div> | | |

| | | | | |
|---------------------------------------|--|---|---|-----------|
| 見通す (5分) | <p>3 問題解決の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項と同じこと ・ 既習事項と違うこと <p>4 学習課題を設定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回の学習では、どのように問題を解きましたか。 ・ 表を使って解いた。 ○ 前回の学習と違うところはどんなところですか。 ・ 前回は出会う問題だったが、今回は追いかける問題だな。 | <p>主 前時の学習を想起させることで、本時の解決方法の見通しをもたせ、主体的な学習の意欲をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表に書くだけでなく、よりよい解決の仕方考えることが目的であることを確認する。 | |
| 調べる (8分) | <p>5 表を書いて問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で数値を記入 ・ 個人で数値の記入 ・ 表の数値と答の確認 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題の図と対応させながら、0分後から3分後までの数値を記入させることで、数値の意味を理解させる。差が0になった時の時間を求めることを押さえる。 ○ 計算まちがいをしている児童へは、個別に指導し正確な値を記入させる。 ○ 個人で表ができていない児童も一斉指導の中で表を完成させる。 | ワークシート(表) |
| 話し合う (12分) | <p>6 表の結果からよりよい解き方を考える。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) ペアで考える。</p> <p>(3) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $840 \div 140 = 6$ ・ まとめ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 表の数値を最後まで埋めなくても答えを導く方法はないだろうか。 ・ 140mずつ縮まっているな。 ・ 2人の間の距離が、840mから始まっているから、140mを使って。 ・ 840mの距離が1分間に140mずつ縮まっているから $840 \div 140 = 6$ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のようにきまりを見付けたり、式に表したりして解決していくことを個別指導する。 対 友達の説明を聞くことで、きまりを見付けられなかったり、問題解決ができなかったりした児童も問題を解決することができるようにする。 また、友達に説明することで、自分の考えがより確かなものであることに気付かせる。 ○ 1分間に140m縮まったことを使っている考え方で説明していれば認めていき、まとめにつなげる。 | 発表用のボード |
| <p>2人の距離と1分間にどれだけ縮まったかを使って、式を立てる。</p> | | | | |

| | | | |
|---------------|--|--|---|
| まとめる (12分) | 7 練習問題を解く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>お兄さんが追いかけて始めたのが21分後だとすると、お兄さんは何分後にあなたさんに追いつきますか。</p> <p>という問題に対して、つばきさんは、3分後までの表を書き、答えが9分後と答えました。どうして9分後としたのか理由を書きましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> $60 \times 21 = 1260$ $1260 \div 140 = 9$ 9分後 差が840mになったのが3分後で、そこから6分後に追いつくから、9分後 | ○ 3分後までの表を提示し、表を見て答を出したという題意を理解させる。 深 140mずつ縮まっていくということを生かして問題解決ができるように個別指導する。 早く解決できた児童には、3分後に2人の差が840mになったことに着目させて別解も考えさせる。 | ワー クシ ート |
| | 振り返る (3分) | 8 本時学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 学習内容と学習の仕方について。 | 深 本時学習について振り返り、対話や話し合いから気付いたことや自分がよく理解できたことなどを発表させる。 |

7 板書計画

変わり方を調べて(1)
学習問題

あなたさんが家を出てから14分たったとき、お兄さんが、自転車であなたさんのあとを追いかけてきました。

あなたさんの速さは分速60m、お兄さんの速さは分速200mです。

お兄さんは、何分後にあなたさんに追いつきますか。

問題の図

| | | | |
|---|-----|-----|---|
| | | | |
| 兄 | 14分 | あなた | 家 |

見通し

- 表が使いそう。
- 追いかける問題である。

学習課題

変わり方を調べて、問題のよりよい解き方を考えよう。

表

| | | | | | |
|----------------|-----|-----|-----|------|------|
| お兄さんが走った時間(分) | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| あなたさんの進んだ距離(m) | 840 | 900 | 960 | 1020 | 1080 |
| お兄さんの進んだ距離(m) | 0 | 200 | 400 | 600 | 800 |
| 二人の間のきよりの距離(m) | 840 | 700 | 560 | 420 | 280 |

答え 6分後

よりよい方法

考え方1
表から2人の間の距離は1分間に140mずつ縮まることが分かります。2人の距離は、初めは840m離れているので、 $840 \div 140 = 6$ 答え 6分後

考え方2
 $60 \times 140 = 840$
 $840 \div 140 = 6$ 答え 6分後

考え方3
 $140 \times \square = 840$ なので、
 $\square = 840 \div 140 = 6$ 答え 6分

まとめ

2人の距離と1分間にどれだけ縮まったかを使って式を立てる。

練習問題

お兄さんが追いかけて始めたのが21分後だったとすると、お兄さんは何分後にあなたさんに追いつきますか。

という問題に対して、つばきさんは、3分後までの表を書き、答えが9分後と答えました。どうして9分後としたのか理由を書きましょう。

理由

- $1260 \div 140 = 9$ となるので9分後となるから。
- 3分後に2人の間のきよりは840mなので、最初の問題と同じきよりであるので、残り6分で追いつく。よって答え9分後

1 単元 資料を生かして呼びかけよう

2 単元計画

| 時 | 主な学習活動及び学習内容 |
|-----------|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しを持つ。 ・ 様々な資料から読み取った情報を活用して自分たちにとって身近な問題(串間の自然)について呼びかける文章を書くこと ・ 教科書に書かれている環境問題の情報・呼びかけ文から相手に伝わる呼びかけ文の書き方をまとめること |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読み取るときに大切なことを確かめる。 ・ 事実と意見 ・ 題名 ・ 出典 ・ 発行年度 ・ 写真(中心と背景) ・ 図(説明との関わり) ・ グラフ(増減) |
| 3・4 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書P92・93の文章を読み、それぞれの資料がどのように活用されているか確かめる。 ・ 文章と資料を対照して確かめる。 ・ 教科書P94の資料を読み取る。 |
| 5 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 串間の自然に関する資料に小見出しをつけ、効果的に活用できるよう構成を考える。 |
| 6, 7 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を用いて、串間の自然について呼びかける文章を書く。 |

3 本時の目標

- 串間の環境問題について呼びかける文章を書くために、複数の資料を効果的に活用した構成を考えることができる。

4 本時で目指すKushima版アクティブ・ラーニングによる児童の姿

国 串間の環境問題について、自分でテーマを決め、進んで資料の内容をまとめたり、自分なりの構成を考えたりしようとしている。

図 資料の内容をまとめたものや構成について、グループでの伝え合いを通して、異なる考えを理解したり、考えを共有したりしている。

国 対話や教科書教材等を基に、呼びかける文章の構成について修正したり、意見の内容をまとめ直したりしている。また、自分なりの解決策について考えを深めている。

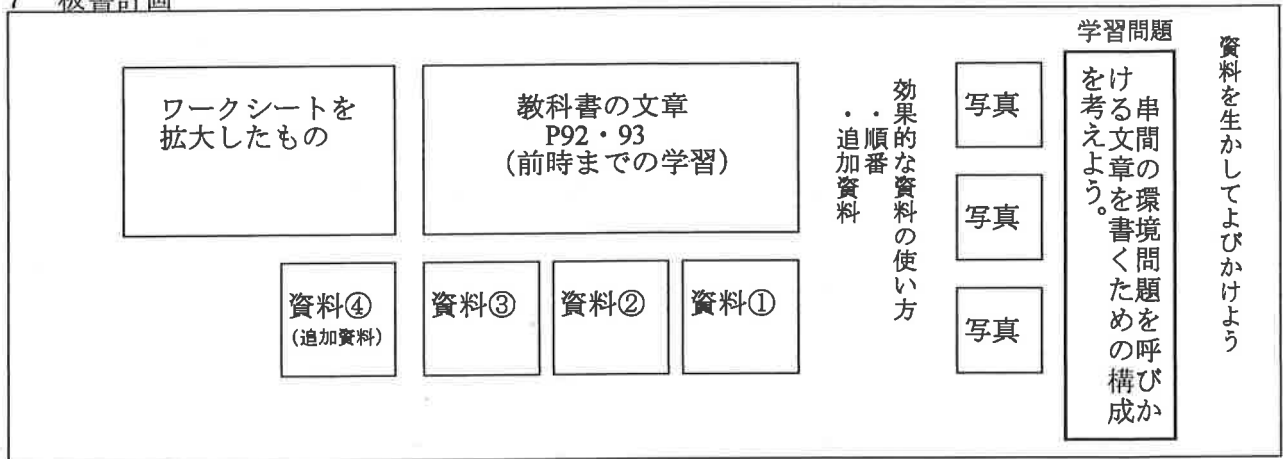
5 本時におけるラーニング・スキル

| 段階 | ラーニング・スキル |
|------|--|
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を振り返ることができる。 ・ 学習問題をすばやく書き写すことができる。 |
| 見通す | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の手持ち資料を素早く、正確に音読することができる。 ・ 他教科の既習事項(写真やグラフの読み取り)ができる。 |
| 調べる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことがあれば恥ずかしくせずに聞くことができる。 ・ 必要な情報がどこにあるかを判断して得ることができる。 |
| まとめる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な箇所のみを抜き出して、まとめることができる。 ・ まとめたことを発表することができる。 ・ 他の人の発表に対して質問や感想をもつことができる。 |
| 振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことや学び方について、感想を言ったり、書いたりすることができる。 |

6 学習指導過程

| 段階 | 学習活動及び学習内容 | 主な発問と予想される児童の反応 | 指導上の留意点（□はアクティブ・ラーニングの手立て ※は評価） | 資料・準備 |
|--------------|---|---|---|---|
| つかむ (5) | <p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文の構成 <p>2 本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマの設定 <p>めあての設定</p> <p>串間の環境問題と呼びかける文章を書くための構成を考えよう。</p> | <p>○ 教材文の構成はどのようになっていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題提起、現状、解決策 <p>○ 串間の自然で呼びかけていきたいことは何がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> コアジサシ 岬馬 幸島の猿 | <p>○ 教材文の構成を振り返ることで、効果的な資料の配列を考えることの大切さを押さえる。</p> <p>国 串間の自然についてテーマを設定させることにより学習意欲を高める。</p> | <p>資料・準備</p> <p>拡大した教材文</p> |
| 見通す (3) | <p>3 学習の進め方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 考える内容（小見出し、順番、構成） 考える時間 学習の進め方 個人→グループ（3人）→個人 | <p>○ 学習の進め方を確認しましょう。</p> | <p>国 考える内容や学習の進め方について確認することで、本時の学習の見通しをもたせる。</p> | |
| 調べる (20) | <p>4 一人で構成を考える。</p> <p>(1) 資料の内容を読み取り、小見出しを付け、自分の意見を書く。</p> <p>(2) 効果的に伝わるように資料を並べる。</p> | | <p>○ 机間指導を行いながら、資料の内容をとらえたまとめになっているかを確認する。小見出しや意見が書けない児童へは個別に助言をする。</p> <p>○ 資料をどんな意図で使うかを個別に確認しながら、順番を決めていくことを助言する。</p> <p>○ 構成ができた児童で他に関連する資料が必要な場合は、活用させることを知らせる。</p> | <p>・串間の自然の資料（岬馬・幸島の猿・コアジサシなど）</p> <p>ワークシート</p> |
| まとめる (12) | <p>5 一人で考えたことを基に意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小見出し 構成 <p>6 意見を聞いて自分の考えをまとめる。</p> | <p>○ 友達の小見出しや構成をよく聞いて、自分の考えとの違いを見付けましょう。</p> <p>○ 友達の意見を聞いてよりよい構成の仕方に再構成しましょう。</p> | <p>国 自分の考えた小見出しや構成を友達に伝えるようにする。自分の考えと同じところや違うところに気を付けて聞くようにする。</p> <p>○ 考えの違うところ、参考にしたいところなどグループでの対話で出させる。</p> <p>国 対話や教科書教材を基に、小見出しや構成について修正をさせる。修正をしたところは色を変えるなどして分かるようにしておく。</p> <p>※ 資料の内容に応じて、効果的に活用した構成ができたか。（ワークシート）</p> | |
| 振り返る (5) | <p>7 本時の学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返り <p>次時の予告</p> | <p>○ 今日の学習で自分の考えに自信がもてたこと、友達の意見を聞いて改善できたことなどを発表しましょう。</p> | <p>国 本時学習を振り返らせ発表させることで、意見や解決策などで、考えが深まったことを意識させる。</p> | |

7 板書計画



1 単元 「おはなしをよもう」〔教材：サラダでげんき〕(15時間)

2 単元計画

| 時 | 主な学習活動及び学習内容 |
|------------------|---|
| 1・2 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習の見通しをもつ。 ○ 単元のめあてを設定する。 |
| 3～9 (8 本時) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 出てきた動物に気を付けて場面ごとに読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ りっちゃんがサラダを作ることになった場面 ・ のら猫が出てきた場面 ・ 隣の犬が出てきた場面 ・ すずめとありが出てきた場面 ・ 馬や白くまが出てきた場面 ・ アフリカぞうが出てきた場面(本時) ・ 出来上がったサラダを食べる場面 |
| 10～ 15 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達の「サラダでげんき」を作る。 ○ できた物語を読み合う。 ○ 単元の学習を振り返る。 |

3 本時の目標

- アフリカぞうがしたことに着目して、何を教えに来たのかを想像しながら読むことができる。

4 本時で目指す Kushima 版アクティブ・ラーニングによる児童の姿

主 学習の見通しをもって、進んで一人調べをしたり話し合いをしたりしている。

対 ペアや全体での伝え合いを通して、アフリカぞうが何をしに来たのかについての考えを共有したり、違いに気付いたりしている。

深 話し合いや板書の情報をもとに、アフリカぞうが教えてくれたことについて、大事なことを落とさずに自分でまとめている。

5 本時におけるラーニング・スキル

| 段階 | ラーニング・スキル |
|-----|--|
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に出てくる漢字やカタカナがすらすら読める。 ・ 前時までの学習を振り返ることができる。 ・ 本時のめあてを正しく読むことができる。 |
| 見通す | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習場面の文章をすらすら読むことができる。 ・ 誰が出てきて、何の材料を薦め、何をしたかななどを文章中から見付け、印を付けることができる。 |
| 調べる | <ul style="list-style-type: none"> ・ アフリカぞうが何を教えに来たのか、自分の考えをもつことができる。 ・ 友達に自分の考えを最後まで伝えることができる。 ・ 友達の考えを最後まで聞くことができる。 |

| | |
|------|---|
| まとめる | <ul style="list-style-type: none"> ・ アフリカぞうが何を教えに来たのか考えをまとめることができる。 ・ アフリカぞうが来たことで、どんなサラダになったか想像し考えることができる。 ・ アフリカぞうが教えてくれたことをワークシートにまとめることができる。 |
| 振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことや学び方について、感想を述べることができる。 |

6 学習指導過程

| 段階 | 学習活動及び学習内容 | 主な発問と予想される児童の反応 | 指導上の留意点 (口は、アクティブ・ラーニングの手立て) ※は評価 | 資料・準備 |
|-------------|--|---|--|---------------|
| つかむ (5分) | 1 前時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 馬と白くまの場面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 前の時間、馬は何を入れるように言いましたか。 ・ にんじん ○ 白くまは何を入れるように言いましたか。 ・ こんぶ ○ 今日は、どんな動物が出てきますか。 ・ アフリカぞう | <ul style="list-style-type: none"> ○ 掲示資料により、前時の場面で、だれが何を入れるように言ったか確認することで本時への意欲付けを図る。 | 学習計画表 掲示資料 |
| | 2 本時の場面を確認し、めあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> アフリカぞうがおしえてくれたことをまとめよう。 </div> | | <ul style="list-style-type: none"> 主 本時の最後にアフリカぞうが教えてくれたことをまとめるということを確認し、学習の見通しをもたせる。 | |
| 見通す (5分) | 3 学習の進め方について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習範囲 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第9場面(P15～P16L4) ○ 調べる観点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場の様子 ・ おすすめ材料 ・ アフリカぞうがしたこと ○ 学習の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読 ・ 一人調べ ・ 話し合い(ペア・全体) ・ まとめ | | <ul style="list-style-type: none"> 主 アフリカぞうが教えてくれたことをまとめるために、一人調べをしたり、ペアや全体で話し合いをしたりすることを伝え、主体的な学習を促す。 | 進め方が分かるカード |
| | 4 調べる観点に沿って調べる。 <p>(1) 学習範囲を音読する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日学習する場面を音読しましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 音読することで、学習範囲を確認させる。 ○ 声の大きさ、読む速さ、正確さに気を付けて読むようにする。 | |

(2) 学習場面の一人調べをする。

- ・ 登場の様子
- ・ すすめた材料
- ・ りっちゃんがしたこと
- ・ アフリカぞうがしたこと

(3) 調べたことを確かめる。

- ・ 登場の様子→直線
- ・ 材料→線囲み
- ・ りっちゃんがしたこと→波線
- ・ ぞうがしたこと→赤で波線

5 調べたことを基に話し合う。

(1) ペアで話し合う。

- ・ ぞうが教えにきたこと

(2) 全体で話し合う。

- ・ ぞうが教えにきたこと
- ・ できたサラダについて

○ 登場の様子は直線、材料は線で囲む、りっちゃんがしたことには波線、ぞうがしたことは赤で波線を付けましょう。

○ 調べたことを発表しましょう。

- ・ とつぜん
- ・ ひこうき
- ・ せかせか
- ・ 油と塩と酢
- ・ なし
- ・ 油と塩と酢をかけた。
- ・ 力強くくりくりんとまぜた。

○ アフリカぞうは、りっちゃんに何を教えにきたのでしょうか。ペアで話し合みましょう。

○ ペアで話し合ったことを発表しましょう。

- ・ 油と塩と酢を入れるとおいしくなるということを教えにきた。
- ・ 材料を混ぜ合わせるとおいしくなるということを教えにきた。

○ どんなサラダになったと思いますか。

- ・ もっとおいしいサラダになった。
- ・ お母さんが元気になるサラダになった。

○ 机間指導を行い、サイドラインなどが引けているか確認する。引けていない児童へは個別に指導し修正させる。

○ 印を付けた所を発表させることで、ぞうのしたことなどを確認させる。

○ 「ひこうき」「せかせか」などの言葉から急いできたことも想像させるようにする。

対 はじめにペアで、次に全体で自分の考えを発表させる。発表するときの約束を確認し、考えを共有したり、違いに気付いたりできるようにする。

○ 児童の発表を黒板に書いておくことで、本時のまとめにつながるようにする。

○ ぞうのしたことなどからできたサラダを考えさせ、想像を働かせながら読むことができるようにする。

話し合いをするときの約束

| | | | | |
|------------------|--|--|--|---------------|
| <p>まとめ (10分)</p> | <p>6 アフリカぞうが教えてくれたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料 ・ 教えてくれたこと ・ 出来上がったサラダ <p>ざいりょう あぶらとしおとす ぞうがおしえてくれたこと。 あぶらとしおとすをいれるとおいしくなる。(味付け) まぜるとおいしくなる。 できあがったサラダ もっとおいしいサラダになった。</p> | | <p>深 板書を手がかりに、アフリカぞうが教えてくれたことについてワークシートにまとめられるようにする。 ※ ぞうが教えてくれたことについて、大事なことを落とさずにワークシートにまとめることができたか。(ワークシート)</p> | <p>ワークシート</p> |
| <p>振り返る (3分)</p> | <p>7 学習したことや学び方について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぞうが教えてくれたこと ・ まとめたこと | | <p>主 本時の学習を称賛するとともに、次時の予告を行い、学習意欲が高められるようにする。</p> | |

7 板書計画

10 がつ 5にち もくようび

めあて

アフリカぞうがおしえてくれたことをまとめよう。

ざいりょう

あぶら しおす

おしえてくれたこと

あぶらとしおとすをいれるとおいしくなる。(あじつけ)
まぜるとおいしくなる。

できあがった サラダ

もっとおいしいサラダになった

まとめ

- ・ あぶらとしおとすをいれるとおいしくなる。
- ・ まぜると おいしくなる。

はなしあい

アフリカぞうがおしえてくれたこと

アフリカぞうがしたこと

×

ちかづよく くりんくりんと まぜた。

ざいりょう

あぶら しおす

りつちやんがしたこと

ひこうき

せかせか

きたようす

とつぜん キューン、ゴーゴー、キュー

できただうぶつ

アフリカぞう

ひとりしらべ

2かい

おんどく

ひとりしらべ

おんどく

はなしあい

がくしゅうの

すすめかた

がくしゅうする

ところ

だい9ばめん

-25-

くしまばんアクティブ・ラーニングのススメ

「くしまばんアクティブ・ラーニング」は、くしま市の
がっこう すす がくしゅう
 学校で進められている学がくしゅう習のしかたです。くしまばん
 アクティブ・ラーニングで学習してみましょう。



1 じぶん がくしゅう 自分からすすんで学習しましょう。



- めあてをもって、学習します。
- 自分のかんが考えをしっかりとちます。
- すすんではっぴょうしたり、せつめいしたりします。
- さいごまでねばりづよく学習します。

2 たいわ がくしゅう 対話しながら学習しましょう。



- 対話（はなしあ話しあ）い）をしながら学習します。
- 友だちのとも話（はなし話し）をきよく聞きます。（うなずき）
- 友だちのいけんにつなげてはっぴょうします。
- 話を聞いて、よい考えやちがう考えにき気づきます。

3 わ じぶん 分かったことをたしかめたり、自分で まとめたりしましょう。



- 友だちの考えやしりょうをつかって、もんだい問題を考えたり、
自分の考えをまとめたりします。
- 学習して分かったことをか書いたり話したりします。
- めあてについて、できたかたしかめます。

※ いつもアクティブ・ラーニングの学習だけではありません。

くしまばん

串間版アクティブ・ラーニングのススメ



「串間版アクティブ・ラーニング」は、串間市の学校で進められている学習の仕方です。串間版アクティブ・ラーニングで学習してみましょう。

1 主体的に学習しましょう。

- 解決方法や答えの見通しをもって学習します。
- 自分なりの考えをしっかりもちます。
- 進んで問題に取り組んだり解決したりします。
- 最後までねばり強く取り組みます。
- 学習をふり返って、学習をまとめます。



2 対話しながら学習しましょう。

- いろいろな対話（話し合い）をしながら学習します。
- 個人で考えたことを伝え合います。
- 友達の意見をしっかり受け止めながら聞き、意見交換したり、考えを共有したりします。
- 対話を通して、新しい考え方やちがう考え方に気付きます。



3 学習したことを活用したりまとめたりして、深い学びにしましょう。

- 学習したことを活用して、問題を解決します。
- 友達の考えや資料などを使って、問題を考えたり、自分の考えをまとめたりします。
- 学習して新しく分かったことやよく分かったことを、書いたり話したりします。



※ いつもアクティブ・ラーニングの学習ではありません。

**Kushima 版アクティブ・ラーニングのために身に付けさせておきたい
ラーニングスキル（学習技能）**

串間市小中学校

| 段階 | ラーニングスキル | 教師の指導及び支援 |
|---------|--|---|
| 問題提示 | <p>① 問題やめあてをすばやく書き写すことができる。</p> <p>② 問題や教科書の文章を正確に読むことができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師と同じ速さで書くように指示する。すばやく書き終えた子を賞賛する。書き終えたことを確認する。 ・ 全員で読んだり、一人一人に読ませたりしながら確認する。日々の授業で習慣化する。 |
| 個人思考 | <p>③ 学習問題、めあてに沿って、自分の考えなどを書き表すことができる。</p> <p>【一人調べのスキル例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題について、自分なりの答えを書き表す。 ○ 問題に沿って、自分なりの考えでサイドラインを引く。 ○ 自分なりの考えを書き込んだり書き足したりする。 ○ 考えを説明する文を2～3文で書き表す。 ○ 考えたことを図や絵に表す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 題意などが分かっているかを確認する。 ・ 考えを書き表す時間をある程度確保する。 ・ 必ず、自分なりの考えを表すことを学習の約束としておく。 ・ 書けない子とは問答をしながら言ったことを書き表すようにする。 ・ 自分なりの考えを書けたことを大いに賞賛する。 (丸を付けてもよい。) ・ 明らかな誤り等は机間指導によりできるだけ修正しておく。 |
| 対話による解決 | <p>④ 対話しながら、問題を解決することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちで解決していこうとする意欲や態度をもつ。 A 分からないことや疑問に思うことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○について、疑問をもちました。 ・ ○○について、○○が分かりませんでした。 B 出された疑問について、解決する意見を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○について、○○だと思います。 <p>※ 仮に友達の発言にまちがいや誤りがあったときに、決して笑わず、受け止める学級集団であること。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達などとの対話などで解決していくことを学習の約束として確認する。 ・ 分からないことの発表など、意欲的な態度を賞賛する。 ・ 友達の発表は、しっかり聞く態度をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 体を向けて聞く、 ※ うなずきながら聞く ※ 話し終わるまで聞く。 ・ 出された疑問について、みんなで考えていき、解決していくようにする。前の発表（話題）に沿って発言させる。 ・ 机間指導で把握していた考えは意図的指名によって発表するように促す。 ・ 出された意見を教師が分かりやすく板書し意見を整理していく。 |

| | | |
|------|--|---|
| | <p>C 同じ内容でも、自分の言葉で発表する。（「同じです」で終わらない。）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○さんと同じで、○○だと思えます。 ・ ○○さんと似ていて、○○だと思えます。 </div> <p>D 友達の意見を聞いて、分かったことや考えが変わったことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○さんの意見を聞いて、○○が分かりました。 ・ ○○さんの意見を聞いて、○○だと考えが変わりました。 </div> <p>※ <u>A～Dの話合いを1つのサイクルとして話合いを進めていく。</u></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ内容であってもできるだけ子どもに発表させる。教師は子どもの発言を繰り返したり、言い直したりはしない。 ・ 書いていないことを発表することも促し、話合いが活発になるようにしていく。 ・ 疑問を出した子が分かったことを発表する場を設ける。考えが変わったことを発表することも奨励し、できた子は賞賛する。 ・ みんなで疑問が解決できたことを賞賛し、協働解決のよさを感じさせる ・ 一つの疑問について解決ができたなら、他の疑問について考えたり、他の事柄について考えたりしていくようにする。話題を変えるときは全体に確認をとる。 |
| まとめ | <p>⑤ 解決したことを自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>○ 学習した内容について、必要なことを落とさず、自分の言葉で書く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 解決したことを再度、個へ戻し、学習問題について自分の言葉で書けるようにする。板書などを生かしてまとめるよう助言する。 ・ うまくまとめられない子へ個別指導しながら、一人一人に自分なりのまとめをさせる。 |
| 振り返り | <p>⑥ 学習したことや学び方について振り返ることができる。</p> <p>○ 学習したことについて感想を話す。</p> <p>○ 学び方についてよかったことを挙げる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達との対話を通して学んだことのよさを賞賛したり、考えを深め広げたことの大切さを押さえたりして今後の学習につなげる。 |

[Name box]

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

父もその父も、その先ずつと顔も知らない父親たちが住んでいた海に、太一もまた住んでいた。季節や時間の流れとともに変わる海のどんな表情でも、太一は好きだった。

「ぼくは漁師になる。おとつといつしよに海に出るんだ。」

子供のころから、太一はこう言ってはばかりじゃなかった。

父は、もぐり漁師だった。潮の流れが速くて、だれにももぐれない瀬に、たった一人でもぐっては、岩がげにひそむ夕玉をついてきた。一ヌートルもある大物をしとめても、父は目まんするともなく言うのだった。

「海のめくみだからなあ。」

不漁の目が十日続いても、父は何も変わらなかった。

ある日父は、夕方になっても帰らなかった。空っぽの父の船が瀬で見つかり、仲間の漁師が引き潮を待たせてもぐってみると、父はロープを体に巻いたまま、水中でとまっていた。ロープのもう一方の先には、光る緑色の目をした夕玉がいたという。

父のもりを体につきさした瀬の主は、何人がかりで引うと全く動かない。まるで岩のような魚だ。結局、ロープを切るしか方法はなかったのだ。

中学校を卒業する年の夏、太一は、母吉いさばに申ししてくれるよらたのみに行つた。母吉いさは、太一の父が死んだ瀬に、毎日一本づりに行つている漁師だった。

「わしも年じや、ずいぶん魚をとつてきたが、もう魚を海に自然に遊ばせてやりたくなつてる。」

「年を取つたのなら、ぼくをこえの代わりに使つてくれ。」

こうして太一は、無理やり母吉いさばの申しになつたのだ。

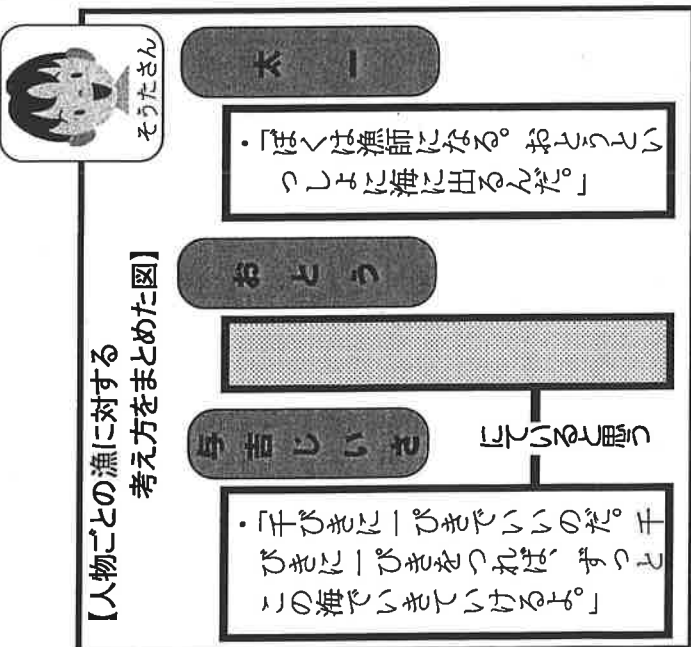
母吉いさは、瀬に着くや、小イワシをつり針にかけて水に投げる。それから、ゆつくりと糸をたぐつていくと、ぬれた金色の光をはね返して、五十七センチもあるタイがあがつてきた。バタバタ、バタバタと、タイが暴れて、尾で甲板を打つ音が、船全体を共鳴させている。

太一は、なかなかつり糸をにぎらせてもらえなかった。つり針にえさを付け、上がつてきた魚からつり針を外す仕事ばかりだ。つりをしながら、母吉いさは独り言のよらに話してくれた。

「千びきに一びきでいいんだ。千びきに一びきをすれば、ずつとこの海でいましていけるよ。」

母吉いさは、毎日タイを二十びきとると、もう理直をかねた。

季節によつて、タイがイサキになつたりアブリになつたりした。



一 上の図は、そなたさんが文章を読んで「人物ごとの漁に対する考え方をまとめた図」です。図を完成させるため、[]の部分に当てはまる言葉を()に書きましょう。

[] に当てはまる言葉は、 [] です。

うしろにも問題があります。

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

それは、夕ぐれどきの「瞬」の出来事だった。若いカラスの群れが、キツネにおそわれたのだ。ツルの群れは、三ツクになる。気がつく、一羽の仲間の命が失われていた。その一羽は、まだ幼い鳥だった。

モンゴルの平原の、うず巻く風の中で、傷ついた群れは、無言の夜をむかえた。だれ的心中にも後悔がうず巻いていた。あのとき、もっと早くにけつければ……。あのとき、すぐキツネに気づいていれば……。一度ともしらな命への思いは、堂々めぐりを続け、くやしきだけがつのっていく。その思いのほけ口なし、どこにもない。

「あのとき、だれが、羽はだいたよな。」

だれかが口を開いた。

「クルルがカラスにえさをとつてやごたときか。」

クルルは、そのとき、体の弱いカラスに、とつたえさをわけしやごている。

「キツネにきづかれたのは、そのせいだよ。」

「あんなとき、えさを分けるんじやないよ。」

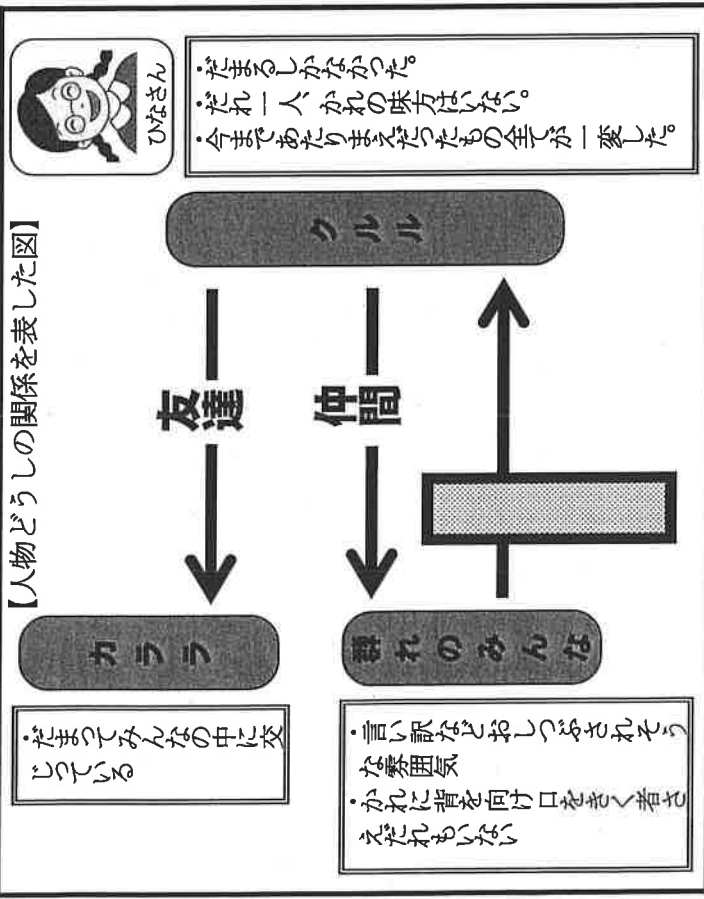
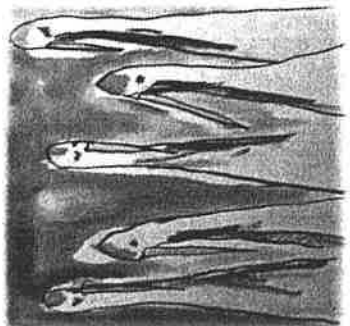
「おれは前から、あいつクルルが気になってんだ。」

いかりの持ったいさぶねが、見つかったとはかりに、みな、口々にクルルに敵しい言葉をぶつけてくる。

(あのとき、羽はだいたはおれだけしやない。キツネは、その前からねらつていたんじやないのか。カラスにえさをあたえたこと、本当に関係があるのか。)

そんな言い訳などおしつゝ、それそれな曇り曇りに、クルルはたまるしかなかった。

そのときからクルルは、まるで仲間殺しの犯人のようにあつかわれるようになった。だれ一人、かれの味方はいない。カラスでさえ、だまごつてみんなの中に交じっている。仲間、友達、今まであたりまえたもの全が、一変した。みな、かれに背を向け、口をきく者さだれもない。クルルの気持ちなど、だれ一人分らうとしなないのだ。

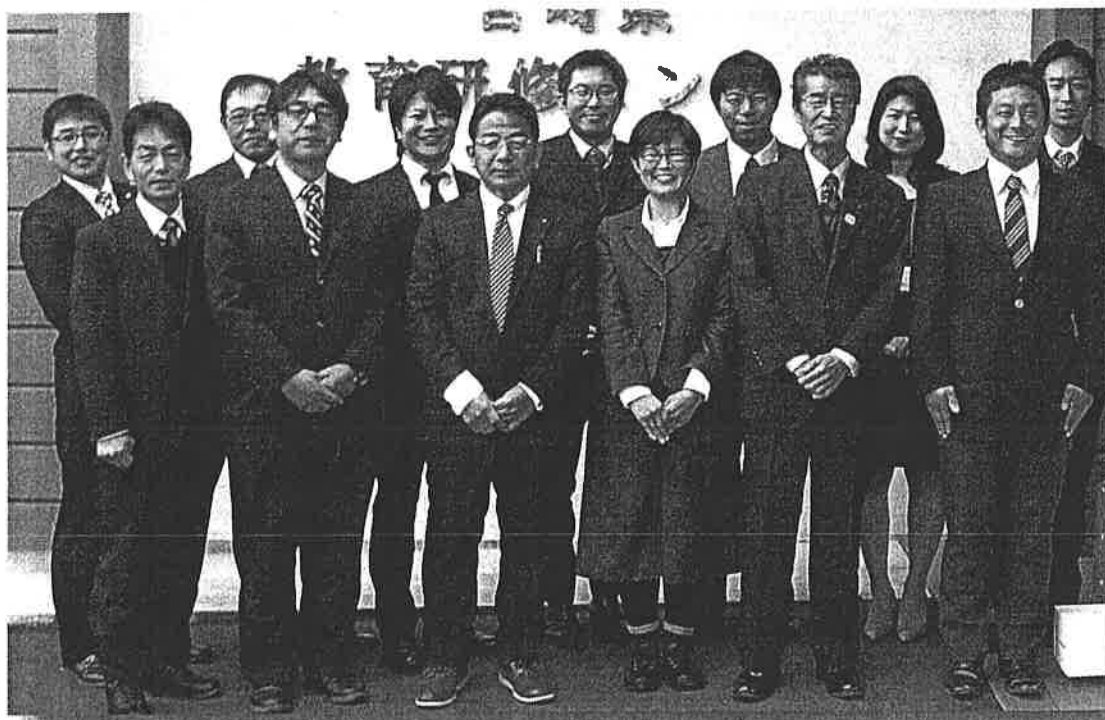


一 上の図は、ひなさんが考えた「人物どうし関係を表した図」です。図を完成させるために、に当てはまる言葉を()に書きましょう。

に当てはまる言葉は、
() です。

うたにも問題があります。

平成29年度 串間市教育研究所



北方小学校

教 頭 多 良 久

1年間、研究所の主任という立場で研究に関わってきて、改めて共同研究のよさを感じました。一人一人の考えを結集して授業づくりを行ったり、事後研で意見を述べ合ったりとみんな真摯に研究に向き合い実践を進めていきました。個人では味わえないこの研究所での営みが一人一人の教員としての指導力向上につながったように感じます。御支援いただきました串間市教育委員会、校長会、一貫教育部会の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。



福島小学校（6年担任）

教諭 音山 福太郎

とても有意義な一年を過ごさせていただけました。先生方と研究を進めることができたことを誇りに思います。

何よりも嬉しかったことは、児童から「今日は、アクティブラーニングの授業ですか？」という質問が毎日のように出ることです。「研究してきたことが、児童にも浸透している。」と実感できた瞬間でした。また、研究授業をさせていただいたおかげで、日頃の自分の授業を見直すことにも繋がりました。この研究がこれからの自分の教育活動に旋風を巻き起こしてくれたこと、本当に感謝しております。



有明小学校（6年担任）

教諭 川越 雅彦

30代後半となり研究と修養を再度見直したい気持ちが強くなりました。今年度の研究はアクティブラーニング（AL）でした。激動の時代にあって、子どもだけではなく大人・教師自身がALを意識して取り組むべきだなと痛感させられた1年でした。研究所で学ぶことで新たな視点もいただきました。授業をすることの楽しさ、人としての器を大きくしていくことの大切さを感じることができました。多くの学びの場をいただいたことに感謝します。



大東小学校（1年担任）

教諭 瀬戸山 なつ代

本年度は、研究員2年目ということで、授業を公開する機会を与えていただきました。授業をするにあたり、指導案検討や事後研究会などで、先生方にいろいろなご意見を頂いたことで、新たな発見があったり、自分の課題が見つかったりと自分の中でたくさんの学びがありました。

本年度の学びを、これから出会う子ども達の指導に生かしていき、本来もっている力を伸ばしていけるように努力していきたいと思えます。ありがとうございました。



大平小学校（1・2年担任）

教諭 上村 直輝

私は、巧詐不如拙誠 [巧詐は、拙誠にしかず]と言う、韓非子の言葉が大好きです。言葉巧みにごまかさず、誠実に事を成すことの大切さを説いた言葉です。

Kushima版アクティブラーニングの実践は、巧詐不如拙誠が無くしては、成立しない実践であると考えます。

研究員として研究に関わったことで、日々の授業へ誠実に向き合う機会を得ることができ、私自身の授業改善へもつながりました。

機会を与え、支えてくださった皆様に感謝いたします。



都井小学校(5・6年担任)

教諭 関師 啓悟

今年で研究員は2年目になります。実践を重ねることで、少しずつ変わっていく子ども達の様子を見るのがとても楽しかったです。2年間やってみて、やはりこの力はこれからの子ども達に必要となってくるものだなと実感しました。毎回の協議では、様々な方と意見を交流することで、新しい視点を得ることができました。市教委の方々、研究所の先生方との出会いに感謝です。この研究が串間市の先生方の中で、少しでも残ってくれると幸いです。



串間中学校(数学科)

教諭 富永 直樹

1年間の研究所で、様々なことを体験し、学ばせてもらうことができました。特に小学校の先生方とじっくり話し合うことができ、小学校での授業の進め方や考え方をすることもできました。また、研究授業や評価問題作成をする中で、算数と数学とのつながりを深く学ぶことができ、自分の中では非常に貴重な経験となりました。新学習指導要領がスタートします。研究所で学んだことを生かし、自分の実践を行っていきたいと思います。ありがとうございました。



串間中学校（国語科）

教諭 清田 しのぶ

由緒ある「串間市教育研究所」で学ぶことができた1年間を支えてくださった皆様に心より感謝を申し上げます。

「主体的・対話的で深い学び」とは、教師である自分自身がそれを体現できていなければ、生徒に授けることはできないのだと思います。変革をおそれず、生産性向上を求め続けねば、目の前の子どもたちの未来をゆたかにすることはかなわないのではないかと思います。この1年間の学びを生かし、今後も良質な公教育を求めてゆきます。



串間中学校（保健体育科）

教諭 尾崎 城夫

今年度、初めて研究員という重要な役割をいただきました。大きな貢献ができず、もうちょっと頑張っていれば・・・と悔いが残ります。しかし、研究員としての活動を通じて、授業づくりに必要なこと、児童・生徒の学力を高めていくことが、児童・生徒の未来を明るくし、将来の夢や希望につながってくるのだと痛感しました。本研究所での活動を糧に、「心に残る授業の実践」を目標に日々研鑽に努めてまいりたいと思います。1年間ご指導いただきありがとうございます。